

2010年11月10日浅草雷門街頭演説抄

昨年、我々は野党になりました。野党になった事も悔しかった。しかし、菅政権の内政・外交を見ていて、今ほど野党である事を悔しく、残念に感じた事はありません。この菅政権の今の外交や経済のかじ取りを許しておいたら、日本はどうなってしまうのか。

私どもは、地に這い、壁に爪を立てても、もう一回皆さんのご信頼を頂いて、日本を本来あるべき方向に持っていかなければならない、その思いを今、新たにしています。現在、衆議院では予算委員会を行っています。今の苦しい国民生活を前にして補正予算の審議も急がなければならない。しかし、これだけ外交がフラフラする。また、国民経済に対して政府が危機感をもたない。やはり予算を審議する中でこの国政の基本的な問題をしっかり議論しない事には、皆さんに安心して頂く事ができない。その思いから、今日は外交そして危機管理についての集中審議を行っています。

しかし皆さん、このところ大変異常な状況が続いておりました。異常な状況とは何か。私は、最大野党の党首です。しかしその最大野党の党首である私すら、ついこのあいだまで尖閣で起った事が何なのか、ビデオがあるのに何が映っているのか知り得ない状況が続いていたわけです。私は、インターネットに流出したあのビデオを見て初めて実態を知り得たわけです。

私はこのビデオを見て、あんな乱暴に日本の海保の船にぶつけてくる。中国は誠にけしからん。言いたい事は山ほどあります。そしてまた、尖閣ではないけれども、ロシアのメドベージェフ大統領は、APECで日本に来る直前に北方領土を訪問した。これも挑発的です。

しかし、残念ながら我々は野党です。残念ながらこの問題の対応を今の政権にしっかりしてもらわなければいけない。ところが、問題はどこにあるか。この尖閣の問題は、決して検察が処理できる問題ではありません。海保だけで処理できる問題でもありません。政治が、内閣が、自らの責任で解決して国民を安心させようという、吹き出る様な思いがなければ解決できません。

ところが、菅さんはどうされたか。本当にこの問題を政治が何も判断せずに、検察に丸投げしたのであれば、政治主導とは一体何なのか。政治主導が聞いて笑わせると言う事になります。また、本当は政治が判断をしたのに、検察が判断をした事にしたのなら、これは責任逃れです。

今回、海保の職員がインターネットにビデオを流した。これは、公務員の規律としてはゆゆしき問題です。ゆゆしき問題ではあるけれども、こういう事が起こるのは、本当に責任を取るべき政治が責任を逃れている。こんな大臣の下でこんな政権の下で、仕事をしてられるかという空気が起こってきても不思議ではない。この危機の管理が全くできない体制。私は、ここに大きな問題があると思います。

こういう事を述べると、必ず「自民党だったらどうしたんだ」と質問が来ます。けれども、沖縄の普天間の問題でもそうですが、さんざんガチャガチャにねじくりまわし

た後、じゃああんたならどうするんだと。馬鹿な事を言わないで欲しいと私は思います。メドベージェフも、自民党政権の間は、日本との友好関係に彼は期待を持っていたのです。そして政権が変わってわずか1年で日本に対する期待を完全にひっくり返してしまっただけです。

我々は、確かにロシアと中国の問題点を指摘しなければなりません。しかし、この中国やロシアに対して、しっかりと対峙すべき政府が、その責任感もその情熱も欠いているとしたら、もうこの政権に私どもは不信任を突きつけるしか仕方がない。1日も早くこの政権の退陣を迫っていかねばならない。私はこう思っています。

そして、何よりもしなければならぬ事は、もう一回日本の外交の基礎を立て直すことです。この地域の安心は、日米安保体制をきちんと堅持する事によって守られてきました。まず、日米の外交関係をきちんと立て直す。しかし、それだけで済むわけではありません。日本がやるべきことを着々とやっていく。例えば、離島の防衛はどうするのか、あるいは世界の平和の為に、鳩山内閣になってインド洋の船も引き上げてしまった。そういった事をきちっと日本はやっていかねばなりません。こういった事を、自民党は必ずやらせて頂きます。

そしてまた、経済の問題も根本が間違っていて、あとどんな手を打っても、国民生活が豊かになっていく、良くなっていくという事にはなりません。まずやらなければならない事は、今多くの工場が日本を見捨てて海外に移転を始めています。この間はずいぶん来べきものが来たなと思ながら新聞記事を見ました。あのトヨタが、カローラの製造工場を全部海外に移すことを検討しているという記事でした。皆さんの中にもカローラに乗っておられる方が居るかもしれない。カローラは、トヨタが一番売れ筋の車として製造を続けてきた。その工場を全部海外に持って行く。これは一体どういうことなのか。これは、今の政権が日本の中で何とか雇用を維持しようと思って頑張っているという現場の声の基礎の声に耳を傾けないからです。

多くの経営者からこういう声を聞きました。何とか雇用を維持するために、日本に工場を残したい。だけれども今の政府から聞こえてくるのは、苦しかったら出て行って頂いて結構だというメッセージしか出てこない。こういう声を聞きます。

民主党政権の色々な政策、CO₂を25%削る。今までほとんどやっていなかった中国ならできます。しかし、世界最先端の技術でやってきた日本が、これから25%削減しようとしたら、どれだけの追加負担が要るか。こういった事を初めとして、今の政権からは、日本の国内で頑張ってくれというメッセージが全然出ていない。これをまずしっかり改める。そして、財源も無いのにバラマキを繰り返している。皆さんの不安を拡大して行く、こういった事に歯止めをかけなければいけません。自民党は、この事をしっかりやらせて頂きたいと思っています。

一日長く民主党政権が続けば、それだけ国民の不利益になる。私どもは、これから国会で全力を挙げてこの民主党政権にNOを突きつけていきます。

私どもはこれから更に精進を重ねて、この危機の時代にもう一回皆様の期待に応えられる自民党になるように、懸命に努力を致します。

どうか自由民主党に暖かいご支援と、また、まどろっこしい時はどうぞお叱り下さい。
全力でやらさせていただきます。お願いを申しあげまして、私のお訴えとさせていただきます。
ありがとうございました。